

テーマ
2

「園が担う防災計画と地域連携について」

講師：国崎信江先生（危機管理アドバイザー、一般社団法人危機管理教育研究所代表）



子どもが安全に過ごせるはずの園で、繰り返しおこる痛ましい事故。それを防止するためには、事故を他人事と思わずに、その教訓を自分たちの園運営に生かすことが大切です。例えば、社会的な事故や犯罪事案が起こったら、必ず園の危機管理対応マニュアルを見直し、園の特性を考慮したオンリーワンのマニュアルとしてわかりやすく作る必要があります。また、報道で見聞きした翌日にはミーティングを行って職員間で問題意識を共有することもすすめています。最近では自然災害発生時の対応について、私どもの研究所で考案した「ファーストミッションボックス」という手法が園でも有効であると注目されています。

座談会

「地域に必要とされる園とは…？」 「保護者に必要とされる園とは…？」

馬場先生

日々の散歩も地域とのつながりを深めるうえで大切です。防災訓練で炊き出しを行えば、食育や行事食とからめて地域と連携した活動ができます。

地域の防災訓練で、若い世代の参加が少なく残念という声をよく聴きます。そこで、地域と園が連携した「共同防災訓練」の日を作ると、保護者と高齢者との交流も生まれて有意義な活動になります。

すとう先生

地域に溶け込む保育として、地域のお祭りへの参加、栽培活動での収穫物のおすそわけなど、地域の人に向けた子どもたちの活動を掲示するなどの方法があります。

国崎先生



受講者のアンケートから

● 「一人一人」を強調されていることは、家庭での生活経験に差が背景にあること、保育所の役割は最もふさわしい生活の場でなければならないことを再確認できた。

● 家庭における日本の文化・行事などの継承がされなくなってきているのは、間違いなく感じる。だからこそ園で伝えることが大事だと思う。園での伝え方を見直していきたい。

● 防災、災害対策などは現在において大変重要なテーマであり、ファーストミッションボックスなどそのための手段、方法などが大変参考になった。勤務園でも早速取り入れてみたい。